③

2026.11.18

令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

北海道地域循環共生圏フォーラム

活動団体の本事業での活動テーマ
『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による
農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道美幌町ほか
活動団体名　　：㈱大雪を囲む会
中間支援主体名　　：㈱地域価値協創システム

１．活動地域の紹介

活動団体の紹介

◎活動目的
　本社を美幌町として富良野、小清水等の北海道大雪山を囲む自治体にある有機農業生産者が、安全でおいしい農作物を消費者の皆様に提供することにより、生産者と消費者の相互理解を深めるとともに、環境にやさしい農業の推進を目指している。
◎活動エリア
　北海道網走郡美幌町を中心に大雪山を囲む上富良野町、小清水町等
◎特徴
　有機農産物の生産、販売に共同で取り組み、有機農産物を社会にもっと広める地域活動や、目指す農業スタイルが、自然にやさしい環境保全型農業であることから、地域の環境・経済・社会の課題解決及びローカルSDGs実現に貢献すべく活動を開始している。

地域の紹介

　北海道オホーツク地域は農林水産業が主力産業であり、地域経済はそこに大きく依存している。人口減少、高齢化の進捗に伴い、地域経済が停滞、縮小していく中、今後も農林水産業をしっかり維持していくことは地域の大きな課題である。地域の1次産業では経営の大規模化が進み、現状、経営は比較的安定しているが、品質基準に合わず出荷できない生産物も多く発生しており、その処理方法もまだリサイクル化が確立されておらず、経済的なロスとなっている。今後ネイチャーポジティブ経済への移行が進むと予測される状況から、それに対応した課題策が求められている。

２．団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	株式会社大雪を囲む会
活動地域	北海道網走郡美幌町

専門性・強み
○構成メンバーの有機農業者が広域に展開 ○着実に有機農産品販路を拡大してきており、新規有機農業者拡大について積極的な活動を実施

団体概要
㈱大雪を囲む会は、本社を美幌町として富良野、小清水等の北海道大雪山を囲む自治体にある有機農業生産者が、安全でおいしい農作物を消費者の皆様に提供することにより、生産者と消費者の相互理解を深めることとともに、環境にやさしい農業を推進することを目的としている。

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	株式会社地域価値協創システム
活動地域	北海道網走郡美幌町を中心に周辺自治体（北見市、網走市等）

専門性・強み
○事業モデルを連鎖的に生み出すプラットフォーム整備をおこない、民間主導で広域で活動し、生産性の高いローカルＳＤＧｓ事業を推進 ○社会福祉と環境保全活動の融合によるビジネスの創出

団体概要
㈱地域価値協創システムは北海道オホーツク地域の8つのNPO法人が出資して設立した法人です。地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成しつつ、持続可能な地域づくりを目指すことを目的としている。

3．目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

“ ローカルSDGsを実現した地域社会 ”
　人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

㈱大雪を囲む会は法人化以前から美幌町内で長年農業を営んでおり、しっかりとした活動基盤を有しており、日常の活動において、地元自治体、各種行政機関、金融機関、商工団体等との接点も多く、地元NPO法人とも交流があり、さまざまなネットワークが利用できる状況にある。このメンバーを中心にプラットフォームを形成し、有機農業のメリットを伝える。

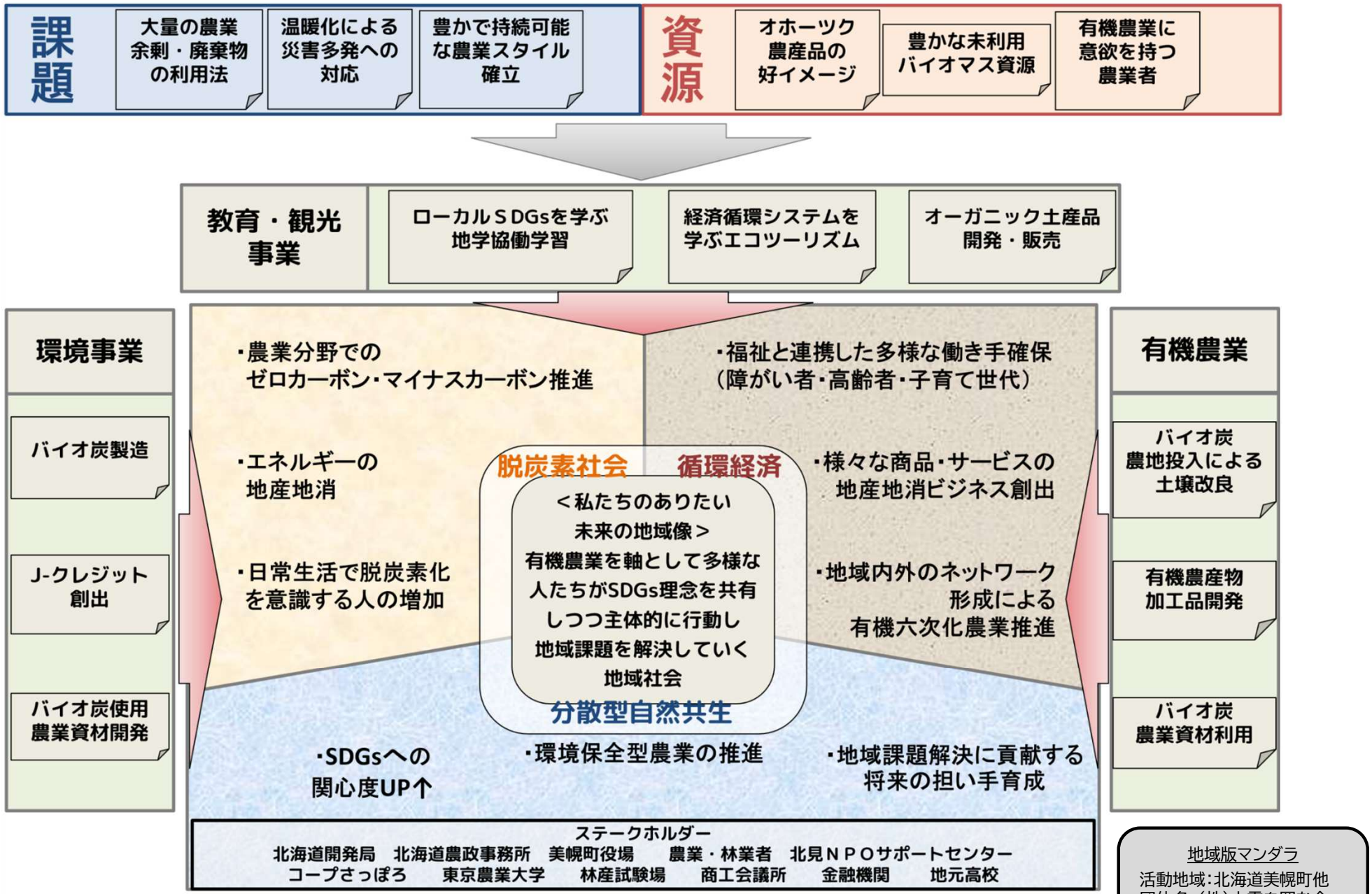
■ローカルSDGs事業として取り組む内容

1．バイオ炭の製造・販売
　・融雪剤等として農地施用によるJ-クレジット活用
　・燃料や農業、工業用資材の開発・販売
2．未出荷有機野菜の有効利用
　・規格外有機野菜使用発酵ジュース開発・販売
3．地域循環共生圏づくり学習・観光事業
　・地元の学校と民間企業等の協働による探究学習の構築
　・教育旅行やサステナブルツアー商品造成及び提供

■地域の現状と課題

地域の基幹産業である農業において大規模化が進み、経営が安定した生産者は存在するものの、農地集約の背景には、人口減少や高齢化による後継者不足による廃業、離農がある。また規格に合わず、出荷されない生産物も多く発生しており、経済や環境におけるロスとなっている実態がある。さらに近年の異常気象で水害も多発し、「みどりの食料システム戦略」等においても地域温暖化防止に向けた緩和策、適応策が強く求められており、加えて化学肥料、農薬等の河川、海洋への流出も懸念されている。

4．地域版マンダラ



地域版マンダラ
活動地域：北海道美幌町他
団体名：(株)大雪を囲む会、
(株)地域価値協創システム
作成日：2026年2月6日

5．主なローカルSDGs事業

有機野菜発酵ジュース開発

【概要】
有機野菜（ニンジン）を使用した発酵ジュースの生産、販売を目指し、８月から有機野菜販売会場等で試飲会を開始し、秋から本格的な販売を開始した。





【段階】
試験販売の結果から、容器容量、パッケージなどを検討中

【活用している自然資本・地域資源】
規格外野菜(ニンジン)



【今年度の取り組み】
規格外で出荷できず廃棄されていた有機野菜を活用し、新たな商品として地域のイベントや道外でのBtoBのマッチングイベントへ積極的に参加し販路の拡大へ向けて積極的に活動を行った。

【事業の成果や今後の展望】
生産者や消費者以外の分野（社会福祉事業者や商工組織等）での協働主体の掘り起こしを進め、活動団体へのマッチングは継続的に進め、会議所や京都での旅館で使用して頂いた。引き続き、マッチングする事業者の掘り起こしを進め活動の拡大を目指す。

廃棄野菜利用融雪剤開発

【概要】
野菜廃棄物を炭化し、ビート工場から出る廃糖蜜を利用した融雪剤開発を北海道林産試験場の協力で製造し、機能効果試験を実施中。



【段階】
散布機械にあった融雪剤形状と融雪効果を試験中

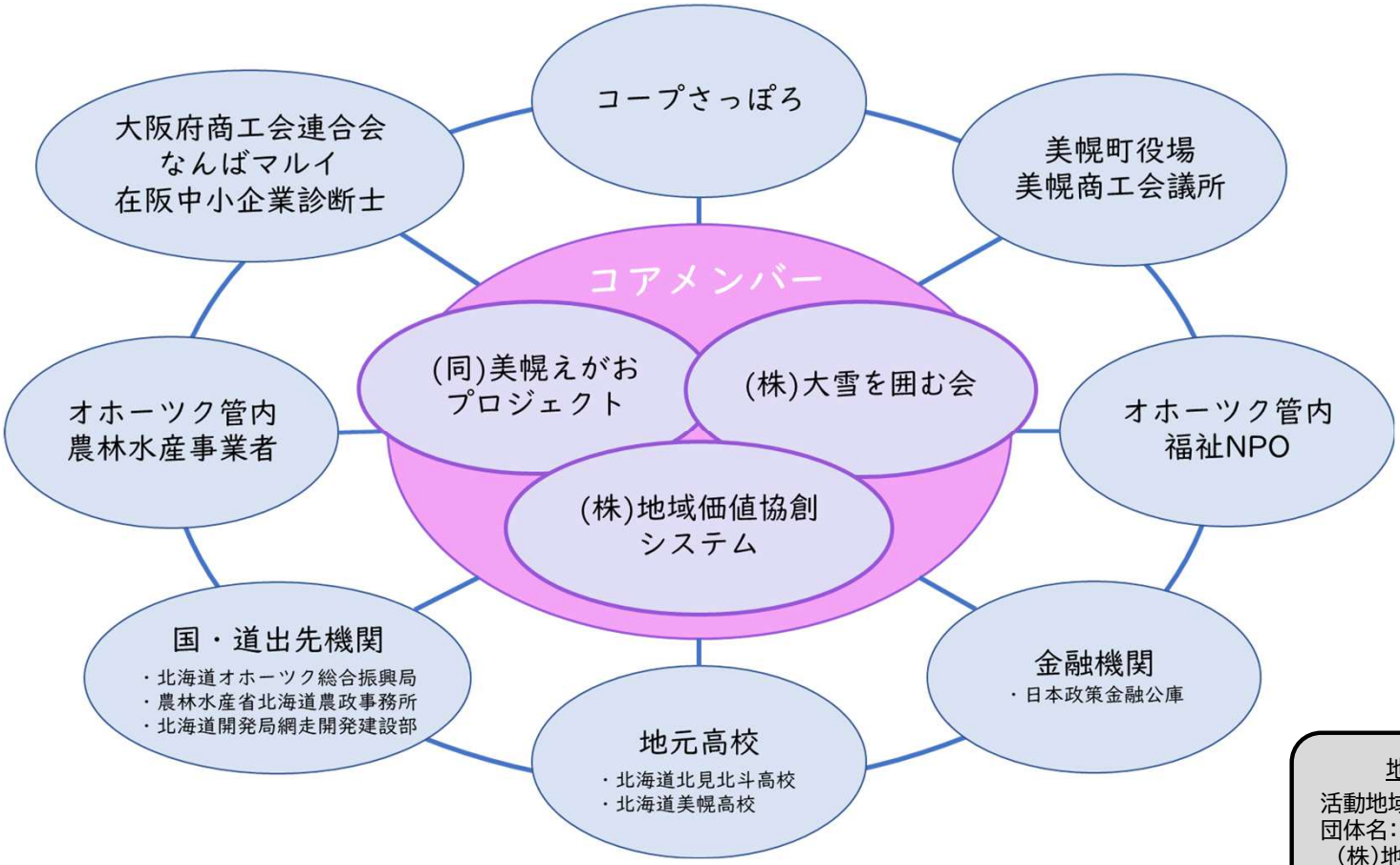
【活用している自然資本・地域資源】
廃棄野菜他未利用バイオマス資源



【今年度の取り組み】
大量の農業余剰・廃棄物を有効活用し資源にする。農業資材として農地への投入を図りJ-クレジットも利用でき、環境保全に貢献しつつ収入増が図れる仕組みを作る。

【事業の成果や今後の展望】
融雪剤の形状を決定すること、次年度に圃場での試験を行い、融雪、土壌改良効果の確認をする。炭化材料や廃糖蜜の確保や保管方法、製炭量を運用するにあたってシステムの検討を行っていく。

6．地域プラットフォームの体制図



地域版マンダラ
活動地域：北海道美幌町他
団体名：(株)大雪を囲む会、
(株)地域価値協創システム
作成日：2026年2月6日

地域プラットフォームの特徴

有機農業を広めるためには、生産物販路確保・拡大と二酸化炭素削減に取り組むメリットの明確化が重要である。そのためのプラットフォームのメンバー構成や協力先として以下の2点の特徴が挙げられる。

①有機農産品消費拡大、ローカルＳＤＧs推進への理解のある道外大消費地（関西）の商工団体、小売り事業者、コーディネート役の中小企業診断士が参画し、有機農業に取り組もうとする人たちに発展性を感じるられるメンバー構成になっている。

②地元の研究機関、大学、高校がバイオ炭を活用した農業分野での二酸化炭素削減に取り組み、今後のバイオ炭の農地投入効果確認のエビデンスへの信頼性が期待できる。

7．活動のふりかえり

■今年度当初に設定した状態目標

○ 福祉ＮＰＯとの協働事業実施
　農産物・加工品共同販売システムの完成
○ 地域共生圏づくり構想具現化
　有機農業を軸としたゼロカーボンファーミング推進システム構築
○ 支援ネットワーク拡大
　道内外の支援者・支援企業の拡大

■今年度の活動のふりかえり

地域プラットフォームづくりやローカルSDGs事業創出を通じて得た「気づき・発見」「団体自身の変化（意識や視点、技術等）」 「新たに認識した課題」等についてご記入ください。

●規格外で出荷できず廃棄されていた有機野菜や海産物を活用し、新たな商品として販売することで、野菜選別作業での障がい者雇用等、循環経済に寄与する活動を行った

●商工会議所との連携で千葉、札幌（チカホ）、大阪などの商談会や販売会（BtoB,BtoC）に参加

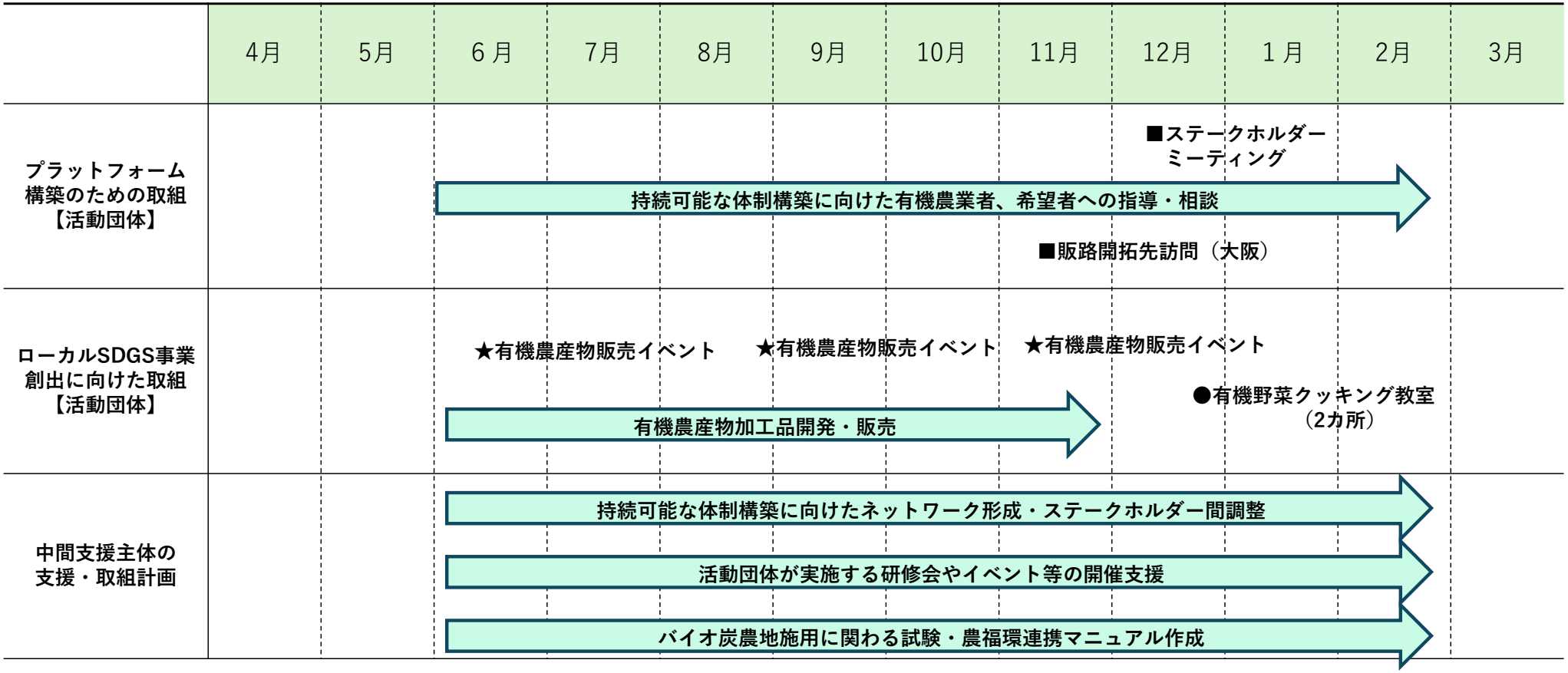
●生産者の増加を目的としたセミナー活動や研修活動を北海や道オーガニック推進協と行っている

●北見藤高校にて有機農業の授業に参加

●オホーツク有機ネットワークの理事となり生産者の拡充に向けて取り組んでいる

活動・支援スケジュール

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）